

# シャコの資源評価に関する研究

豊前海研究所

## 背景、目的

豊前海において、シャコは小型底びき網漁業の重要種ですが、近年、その漁獲量は減少し、体長も小型化していることから、今後の資源動向が危惧されます。

そこで本研究では、シャコの適切な資源管理に必要な知見を得るため、資源状態の解析・評価を行いました。

## 成果の概要

### (1) 漁獲調査

平成18～20年度に毎月1回、底びき網によるシャコの漁獲調査を実施したところ、採取尾数は20年前の約20%に減少していました。

また、商品サイズとなる全長10cm以上のシャコが極端に少ない状況でした。



豊前海で漁獲されるシャコ

### (2) 年令査定

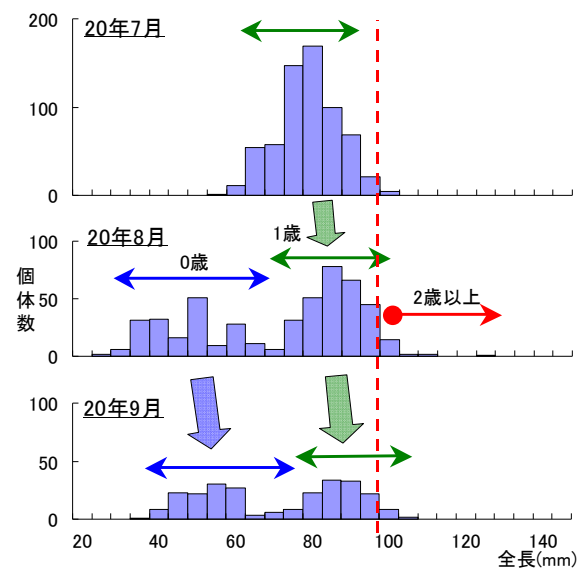
採取されたシャコの脳内に蓄積されるリポフスチンの量を測定することにより、年令を判定した結果、採取されたシャコはほとんどが1歳以下であることがわかりました。

### (3) 資源解析

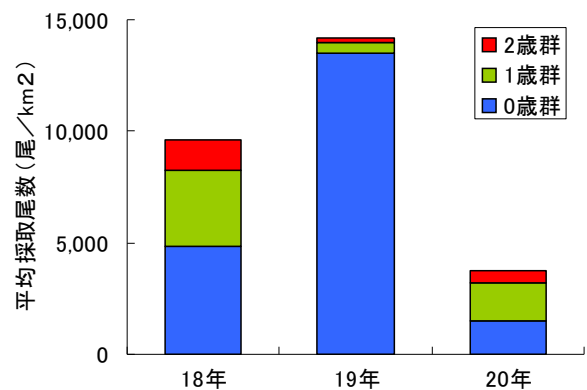
採取されたシャコの全長組成と年令査定の結果から、資源の状況を解析したところ、産まれてから1年間生存できる個体は、約1～2割しかいないことが明らかになりました。その原因の一つとして、底びき網への入網や船上選別時のダメージにより、再放流後に死亡することが考えられます。

また、生後1歳を過ぎる頃から漁獲対象となり、約2歳までにほとんどが漁獲されていることもわかりました。

現在、これらの成果を受け、小型底曳き網漁業者により、10cm(100mm)未満のシャコは水揚げしないなど自主的な小型シャコ保護の取り組みが行われています。



シャコ全長組成の推移



各年のシャコの年令組成